



# おおや



10月号 R8.10.1

学校教育目標「心豊かでたくましい子の育成」

発行責任者  
校長 湯本 貴幸

上尾市立大谷小学校 上尾市大字大谷本郷 528 電話 048(781)0120

## 命を守るために、もう一度確認を

10月に入り、少しずつ秋らしさを感じる季節となりました。現在、子供たちは、数日後に行われる校内音楽会に向けて、学年ごとに練習に励んでいます。本番では、これまでの練習の成果を発揮し、一人一人が音楽を楽しみながら、素晴らしい演奏を届けてくれることを願っています。

一方で、これからの時期は、子供たちの安全について、いつも以上に気を付けたい季節でもあります。それは、「交通事故」です。

秋から冬にかけては、夕暮れの時間が早くなり、交通事故に注意が必要です。特に気を付けたいのが、夕方の「薄暮時間帯」と言われる日の入り時刻の前後1時間当たりの時間帯です。日が沈む前後は、周囲が急速に暗くなり、ドライバーからも歩行者からも、お互いの姿が見えにくくなります。私自身も、車を運転している際、夕方の強い西日によって前方が見えにくくなり、怖い思いをした経験があります。「自分からは車が見えているから、車の方からも自分が見えているだろう」とは限りません。これから日が短くなるにつれて、子供たちが学校から帰る時間帯にも、少しずつ暗さが増してきます。

「いつもの道だから大丈夫」「車の方が気付いてくれるだろう」と思うことが、思わぬ事故につながる場合があります。道路を渡るときには、自分自身で左右をしっかりと確認し、横断歩道を利用することを徹底してほしいと思います。横断歩道を渡らない、道路を斜めに横断する、急に飛び出す、停車している車の前後から道路を横切るといった行動は、とても危険です。「車が来ていないから大丈夫」ではなく、「車が来るかもしれない」と考え、自分の命を守る行動をとってほしいと思います。実は先日、学校の周辺でも「小学生がキックボードで急に飛び出し、車が急ブレーキをかけたのを見かけた」と地域の方から学校に心配の連絡が入りました。

そのようなことから10月の講話集会でも、道路の安全な横断の仕方について話をしました。これからの季節を踏まえ、明るい色の服を着る、反射材を身に付ける、自転車に乗るときにはヘルメットをかぶる、暗くなる前に早めにライトを点けるなど、自分からできることについても確認しました。

学校では、交通安全について繰り返し指導しています。しかし、子供たちが安全な行動を実践するためには、学校での指導だけでなく、ご家庭での声掛けも大きな力になります。

「道路を渡るときはどうする?」「夕方、暗くなってきたら、どんなことに気を付ける?」「自転車に乗るとき、ヘルメットはかぶっているかな?」このような日常の何気ない会話の中で、交通安全について確認していただければと思います。

交通事故は、「気を付けていれば必ず防げる」というものではありません。しかし、「自分の命は自分で守る」という意識をもち、安全な行動を積み重ねることは、事故を防ぐための大切な一歩です。

学校と家庭が一緒になって子供たちの安全を見守り、これからの季節も、子供たちが安心して学校生活を送り、元気に家庭へ帰ることができるようにしていきたいと思います。ご家庭でも、今一度、交通安全についてお子さんと話す機会をつくっていただければ幸いです。